

# 7月 水稻生産情報

令和6年7月  
JAつがる弘前  
岩木地区営農係

## 1・生育概況

6月中旬から気温が平年より高く推移したことから、はれわたり、まっしぐらともに生育は平年並～やや良という状況になっています。

これから稲は最も水を必要とする時期を迎えます。気象情報を確認し、こまめな水管理を実施しましょう。

当農協管内の水稻生育観測圃の調査結果（7月1日）

調査項目		はれわたり	まっしぐら
草丈 (cm)	本年	38.0 (47.3)	59.3 (54.0)
	平年	48.8	48.2
茎数 (本)	本年	18.0 (20.1)	35.6 (23.0)
	平年	18.6	17.8
葉齢 (葉)	本年	7.6 (8.2)	8.3 (8.4)
	平年	8.4	8.2

本年の値は地区値。( )内はJAつがる弘前管内の平均値  
平年の値はJAつがる弘前管内の平年値

## 2・中干しの終了

すでに中干しを実施している圃場がほとんどですが、幼穂形成期前（7月6日頃）には終了し、水を入れましょう。

## 3・追肥の実施

### (1) 追肥時期（幼穂形成期）

はれわたりで7月8～15日頃、まっしぐらで7月6～13日頃です。今年のはれわたりで平年並、まっしぐらで3日程度早く生育が進んでいますので、タイミングを逃さないよう適期に追肥を行いましょう。

### (2) 施肥量

幼穂形成期に生育量や葉色を見ながら窒素成分で10a当たり2kg程度を施用してください。葉色が落ちない場合は追肥を中止しましょう。

## 4・水管理

生育ステージ	水深	備考
幼穂形成期（予想） （7月8日頃～）	気温に関係なく 10cm程度の深水管理	深水管理を行うことで充実した花粉が増加し受精能力を高めることができます。
穂ばらみ期（予想） （7月18日頃～）	寒い日：15cm 暖かい日：4cm	最も低温に弱い時期です。天候に注意してこまめに水管理を行いましょう。
出穂・開花期 （8月1日頃～）	寒い日：10cm 暖かい日：5cm	最も水が必要な時期です。開花・受精がスムーズにできるよう、水を切らさないようにしましょう。

寒い日の目安は平均気温20、最低気温17を下回る時です。

## 胴割粒対策

出穂後10日間の最高気温が30を超える場合、胴割粒の発生リスクが高まります。高温が予想される場合は稲体の温度を下げるため、積極的にかけ流しを行いましょう！

## 5・カメムシ対策

畦畔の草刈りは7月20日頃までとし、9月上旬まで行わないでください。7月20日以降の草刈りは逆にカメムシを水田に追いやることになるため、吸汁被害を受けやすくなります。吸汁被害を受けた籾は斑点米となり落等の原因となりますので、要注意です！

## 6・病害虫防除

散布時期	散布薬剤	対象病害虫	JA米	青天の霹靂
出穂直前	ビーム粉剤 DL 又は ビームゾル（航空防除）	いもち病	○ ○	○ ○
穂揃期	ビームスタークル粉剤 DL	いもち病、カメムシ	○	×
	キラップ粉剤 DL 又は スタークル1キロ粒剤	カメムシ	○ ○	× ○
穂揃い 7～14日後	スタークル粉剤 DL 又は スタークル液剤（航空防除）	カメムシ	○ ○	○ ○

穂揃期にスタークル粒剤を使用した場合、穂揃い7～14日後にスタークル粉剤 DL、スタークル液剤は散布できません。